

幼児期の経験を生かして安心できる学校生活を

新しい生活が始まり、毎日ドキドキ・わくわくしながらも、がんばっているお子さん。「楽しかったよ！」と元気いっぱいのものであれば、学校や園では緊張したり、気が張ったりしている分、家ではふっと力が抜けて、**がんばりの裏側にある気持ち**がこぼれることもあるかもしれません。でも、それは「安心できる場所だからこそ」出てくる言葉です。

大好きな人に気持ちを聞いてもらえるだけで、子どもはまた明日に向かえる力を取り戻します。

「よくがんばってるね。」「明日は楽しいことがあるといいね。」そんな前向きなひと言が、子どもの心をふわっと軽くしてくれます。

完璧に励まさなくても大丈夫。保護者のかたの“ゆったりした気持ち”が、子どもにとっていちばんの安心につながることがあります。



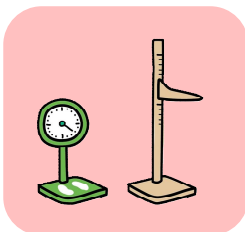
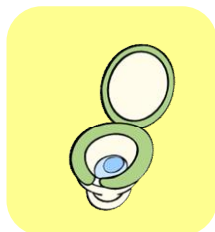
つながっている学びの芽生え

これまで園などで最年長として各々に力を発揮していた子どもたちは、入学すると新しく「教えてもらうこと」「覚えること」が多くなると感じるかもしれません。

しかし、学校ではそれまでに経験したこと、育んできた主体性や自信を大切に次へのステップへ導いていきます。

幼児期に積み重ねた経験(学びの芽)は、子どもたちの中に確かな土台となって根付いています。その力をもとに、新しい生活の中で少しずつ自分のペースをつかめるよう、温かく見守っていきましょう。

これまでの歩みをさらなる自信に変えることが、これからの学校生活を支える大きな力になります。



つかったことあるよ

やったことあるよ

しってるよ
みたことあるよ

